

全国編

防災・減災のページ

巡回ワークショップ

@三重・尾鷲市川原町自治会

むすび塾

三つの自治会には一人カシて助けた事例を紹介して逃げられない高齢者約15人いる。リヤカーで運ぶ訓練を実施した自治会もあつたが、1台につき2人の介助が必要となし、乗せるだけでも苦勞という。移動も危険が及ぶ懸念がある。知古町自治会は、車いす4台の活用を計画している。会長の塚原石(石)は「要援護者には避難することはできない」と強調。津波警報などの情報を待たずに玄関の鍵を開け、何とか外に出てもらうよう伝えている」と説明した。

議論に参加した宮城県七ヶ浜町の行政長鈴木享さん(59)は、震災で9代の女性を地域住民が協

助けた事例を紹介して逃げられない高齢者約15人いる。リヤカーで運ぶ訓練を実施した自治会もあつたが、1台につき2人の介助が必要となし、乗せるだけでも苦勞という。移動も危険が及ぶ懸念がある。知古町自治会は、車いす4台の活用を計画している。会長の塚原石(石)は「要援護者には避難することはできない」と強調。津波警報などの情報を待たずに玄関の鍵を開け、何とか外に出てもらうよう伝えている」と説明した。

議論に参加した宮城県七ヶ浜町の行政長鈴木享さん(59)は、震災で9代の女性を地域住民が協

要援護者の避難

東日本大震災の教訓を地域の備えに生かすため、河北新報社は5月25日、巡回ワークショップ「むすび塾」を三重県尾鷲市の川原町自治会で開いた。東北以外での開催は海外を含め5回目。減災・復興支援機構(東京)の木村拓郎理

東日本大震災の教訓を地域の備えに生かすため、河北新報社は5月25日、巡回ワークショップ「むすび塾」を三重県尾鷲市の川原町自治会で開いた。東北以外での開催は海外を含め5回目。減災・復興支援機構(東京)の木村拓郎理

限界共有 最善尽くそう

トランプ巨大地震で倒壊する危険性が高いことが話題になった。揺れへの備えは、ほとんどの家庭で家具の転倒防止にとまっていた。

参加者の中には、非常用持ち出し袋を軽くするため、中身を減らしている人がいて、これは見直した方がいいと確認。安全な場所に自治会倉庫を造り、個人の物資も備蓄しておけば身軽な状態で逃げられる」というアイデアが出る、みんながうなずいた。

相馬市の民生委員五十嵐ひで子さん(65)は、津波に流されて九死に一生を得た体験を語った。川原町自治会の塩谷美保さん(75)は、1944年の東南海地震で、五十嵐さんと同様に自宅で津波に襲われた。「避難まで時間がかかった」と振り返る。

南海トラフ巨大地震が起きた場合、尾鷲市には最短4分で1級の津波が来ると予想される。参加者は2人の体験を聞き「体一つで逃げよう」と「やっぱり『逃げるが勝ち』だ」と、素早い避難行動を誓い合った。

むすび塾に参加して

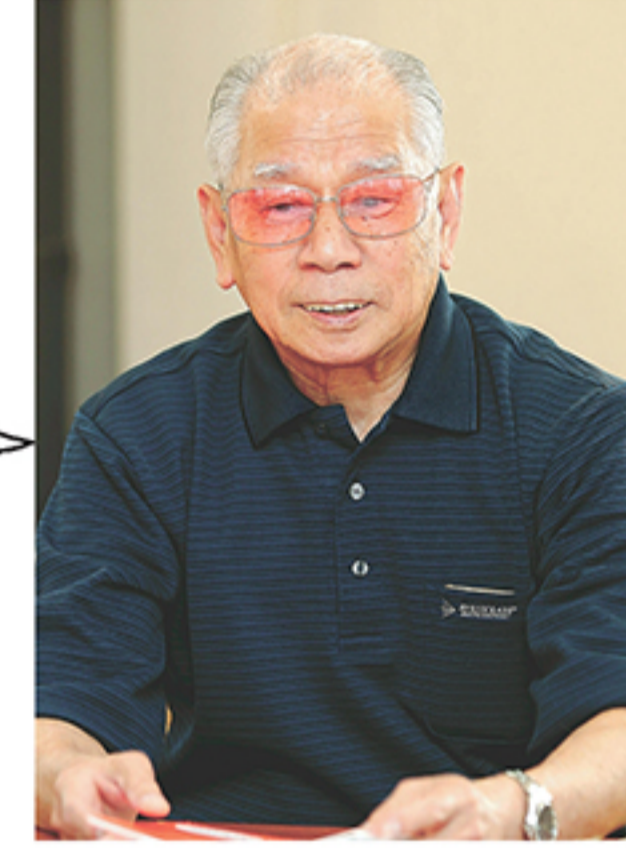
【心配なこと】非常用持ち出し袋を軽くするため、必需品だけに絞っていた。あらかじめ避難先に個人の備蓄品を保管する方法があることを知り、勉強になった。

―農業・船津智子さん(65)



【日々の備え】テレビの取材に津波は「逃げるが勝ち」と訴えたら、市全体の標語になった。声を掛け合いながら「率先避難」を心掛けた。

―川原町自治会長・山西敏徳さん(80)



【心配なこと】地域は道が狭く、住宅が倒れたら避難は困難になる。避難タワが整備されても足腰が弱い人が上るのは大変だろう。私は毎日1時間半は歩いている。

―主婦・岩崎敦江さん(80)



【参加して】五十嵐さんの体験談が身に伝わり、涙が出た。津波が来るときは、とにかく逃げるのが大事だと痛感した。

―尾鷲北婦人会長・塩津史子さん(68)



相馬市・民生委員 五十嵐ひで子さん(65) **何が可能か確認を**

震災当日、津波が来るとは思わず、避難が遅れてしまいました。濁流にのまれ、一緒にいた夫と伯父が命を落としました。「逃げよう」となげ言えなかったのか。いまも後悔しています。

地震が起きたら早く逃戻った人が犠牲になった。残された家族はとてつめてほしいし、子や孫に命を大切に伝えてほしい。自力避難が難しい人を、地域で何ができるのか、話し合おう。地震後に自宅に助けられなかった場合、話し合おう。

宮城県七ヶ浜町・行政区長 鈴木享さん(59) **日常の交流深めて**

震災前に自主防災組織を設立し、津波を想定した「2時(いつとき)避のほ」として、話し合いの過程で「避難所」を地域住民で選んで防災意識を高めることができた。肩書、年齢関係なく自由に意見を言い合、防災を自分の問題と捉えてもらうことができました。要援護者の避難介助は難題です。隣近所に気軽にお願いできるよう日頃から付き合いを深めてほしい。

迅速化意識 浸透が急務

三重県尾鷲市は紀伊半島東南に位置し、黒潮が流れ込む太平洋(熊野灘)に面し、リアス式海岸が続く。温暖多雨の気候で、約1万世帯の約2万人が暮らす。古くから林業と漁業で栄え、尾鷲ヒノキや全国有数の漁獲量を誇るマダイが有名。沿岸部は工業化が進み、市中心部に火力発電所が立地する。2004年に世界遺産登録された熊野古道は、大勢の観光客でにぎわう。

想定される南海トラフの巨大地震の震度は最大7。17%の津波が予想され、市の3.5%に当たる680

が浸水する。高さ1mの津波が地震後4分、10mの津波が14分で到達するとされるため、素早く避難する意識の浸透が急務となっている。